

令和2年8月28日

名古屋市長
河村 たかし 様

公明党名古屋市議員団
団 長 金 庭 宣 雄

東部・西部医療センターにおける積極的な患者受け入れについて

日々市民の地域医療の確保、救急医療の提供などにご尽力いただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症に関し、国内では令和2年1月に初めて新型コロナウイルスの患者が確認されて以来、2月から3月には名古屋市において大規模なクラスターが発生し、さらには3月下旬からの東京都をはじめとした全国各地での患者急増が見受けられましたが、緊急事態宣言など国をあげた対策により一旦は収束したかに見えました。

しかし、国の緊急事態宣言の解除後の6月中旬以降、若者を中心に感染者数が増加に転じ、本市においても7月中旬以降の患者急増を受け、7月30日には108人と初めて患者数が100名を超え、8月8日までに患者が100名を超える日が計5日となりました。愛知県は独自の緊急事態宣言を発し、本市は消防署員による栄地区の巡回などの様々な対策を行い、現在では若干感染者数が落ち着きつつありますが、昨今では高齢者の患者割合が増えるところとなり、連日、入院患者の増加が続いております。特にこのところ中等症の患者も増えるところとなり、また残念ながら8月中旬以降、16名の方が相次いで亡くなっております。

こうした現状においては、十分な医療が受けられるよう必要な病床が確保されることが、何よりも市民の安心につながります。新型コロナ患者を受け入れる指定病床の確保・入院がなかなか進まない中で、公立病院である東部・西部医療センターが率先して病床を確保し、適切な治療が必要な多くの市民を積極的に受け入れることが求められています。また公立病院のこうした範たる行動が、他の民間病院による病床の実質的な確保・提供につながるものと考えます。

つきましては、以下の通り要望いたします。

- 1 感染症対策における東部医療センターはじめ市立病院の役割を鑑み、すみやかに新型コロナで苦しむ患者を入院受け入れする十分な病床と体制を整えること。
- 2 緑市民病院で発生しているクラスターを早期に収束させるべく、重症患者等の東部医療センター等への転院など必要な対策・対応を尽くすこと。